

会議録

件名	第10回 軽井沢未来構想会議
日時	平成26年3月24日(月) 13:30~15:30
場所	軽井沢町役場 3階 第2委員会室

事務局 (udc) :挨拶

皆様、お忙しいところ有難うございました。2月は雪のために本日で10回目となります。若干早いですが、始めさせていただきます。中間報告として取りまとめることになっています。10回目ですので、中村委員長にご挨拶を頂いて進めて参りたいと思います。

事務局から中間報告をさせていただきます。

中村委員長:挨拶

お忙しい中お集まり頂き、誠にありがとうございます。今回は雪のため急遽中止となりましたが、10回目として宜しくお願ひいたします。これまで先生方、パブリックコメント等から沢山のご意見、視点が出おりますので、今からは意見を集約していく段階だと思っております。新年度からは、集約されたものを形にする作業を幹事会中心でまとめていきながら、要所で先生方にご意見をお伺いする形で進めていきたいと考えております。今日は初年度の最終回となります。中間報告をさせていただきますが、どこ



まで先生方の意見を集約されているかについて、もう少し時間を頂戴したい気持ちはございますが、可能な限りまとめています。色々な視点が出揃ったという感じはしています。今回はそれを中心に議論し、絞れ切れていない部分のご意見を頂きたいと思ひます。今回の大きな作業成果は2つあります。一つは配布資料の1枚目に載せているものになります。これは最終的にはA1サイズになりますが、様々なキーワードをキャッチコピー風に載せております。これは軽井沢の長期的な未来に関する一種の思想的な形を提案しています。課題に対する解決の計画ではなく、未来に向かっていく理念、フィロソフィーを提案する性質のものになります。従来の自治体にある将来計画とはかなり違った性質のアウトプットとなります。そうは言ひましても、やや分かり易い計画的なレベルの将来像を求めている町民の方々もいますので、第二として分かり易い様に5つの地区の具体像を一つの例としてお示しする作業を行っています。この2つによってこの会議の成果がまとまる方向で考えています。この2つについて作業班からの説明を頂き、総合討議を行いたいと思ひています。

2つの課題資料を小野寺さんからご説明頂きたいと思ひます。宜しくお願ひします。

軽井沢町ランドデザイン像作成事業 中間報告

- 資料 1-1 : 軽井沢ランドデザイン像 フローチャート
- 資料 1-3 : 軽井沢ランドデザインイメージ図
- 資料 1-4 : 軽井沢ランドデザインイメージ
- 資料 1-5 : 軽井沢全体地形図
- 資料 1-6 : KJ法によるパブリックコメントの構造化
- 資料 1-7 : 軽井沢エリアデザインイメージ図

中村委員長 :

有難うございました。まずは5つの地区のエリアデザイン像についてご説明していただきましたので、まずは、これについてご質疑いただいてから、その後でランドデザインイメージを私の方からさせて頂きたいと思います。それでは、ご質疑よろしくお願ひいたします。

花里委員 :

旧軽井沢地区の教会前の活用の仕方について、ヨーロッパ等では朝市やクリスマスイベントが開催されるかと思いますが、ソフト面ではどのような事を検討していますか？

事務局 : (小野寺)

現在でも教会で活動はされているかと思いますが、まだ具体的に活動内容まで検討するに至っていません。旧軽井沢銀座の銀座通りには外部資本が入り込み、もともとのあった様な軽井沢らしい商店や商売の仕方に変化が出てきている中で、ユニオンチャーチの周辺はまだもともとの方々が多少残っております。出来れば、教会前を再整備する中に、外部資本の銀座通りとは違う活動を促す事は、アクションとして起こすべきだと思っています。

進士委員 :

今後の話を含めた感想ですが、資料 1-6 パブリックコメントからお話しさせてもらいます。タイトルに、わざわざ KJ 法も構造化の表記も必要はないと思います。これから中村先生が説明される委員長のコンセプト、本文との関係については、最終的なアウトプットにする時には丁寧に注意してほしいと思います。中村先生の格調高い思想、文章は軽井沢としての風格を感じるものですので、そのまま出した方が良いでしょう。少し漢字が多いのですが、旧字を使用するとなお良くなると感じました。しかし現代社会とパブリックコメントに出てきた具体的な提案とのギャップが出てくると思います。やはりパブリックコメントの様な市民意見を思想的に高めていった結果の姿としてまとめるストーリーの方が良さそうだと感じます。後で繋げて修正するというよりは、逆の考え方が良いでしょう。これは資料の並びの問題でもあります。

資料 1-1 の資料は良くできています。資料 1-7 エリアデザインについて、ゆうすげフォーラムのみが地区範囲は広くバランスが悪いと感じます。地域範囲は同じ規模にしないと住民から意見が出ると感じます。



資料 1-3 については、非常に良いアイデアだと思っています。東京から長野までが入り、南側を拡張して描く事は大変素晴らしいと感じています。ただ、中心のイラストが少し書き込まれた新しい絵になるのであれば、上下のイラストや写真は無くても良いのではないかと思います。中心がメインの絵でとなるので、上下も絵にしてしまうと、全体がうそっぽくなる気がします。軽井沢の風景はそれぞれが絵になりますし、十分にイメージは伝わると思います。中心（メイン）を絵とし徹底し、周辺はリアリティを出すために写真にする戦略もあるのではないかと思います。あくまでも意見です。文章も一行でシンプルにした方が良いと思います。いずれにしても、この様に曼荼羅で全体像が見える事は大変良いと思っています。

今回の構想の一つとして自然地形はベースになると思います。資料-5 軽井沢全体地形図で示している様に軽井沢は地形や水系、植生が非常に明確です。これをベースとして構想を作成していただきたい。その上に、資料 1-6 のパブリックコメントで出てきた市民意見をのせ、それを専門家が集まった未来構想会議で練り上げ、最終的には中村先生のご思想で体系化したというストーリーが良いと思います。このストーリーが良いと思いましたが、「ヤマ、ハラ、ヌマ」だけが良いかどうかという事があります。もう一つ、全体像として歴史の話が入らないかと思います。エリアデザインには、教会の配置等、多くの歴史的要素がでてきていますので、全体像として歴史的資源、歴史的興味地点を落とした歴史的理想図も絵にした方が良いかと思います。自然系は情報を入れ込み特化させ、追加で歴史図、その次にパブリックコメントという形で 3 枚のベースマップできると良いと思います。これの様なベースがあれば、ランドデザイン、エリアデザインに繋げる良いストーリーになるのではないかと一つのアイデアです。

資料 1-7 のそれぞれのアイデアはとても良いと思います。

旧軽井沢地区の「聖の軸」ですが、この軸に意味を持たせるならば、北側の軸も意味や名前があった方が良いと思います。2 つの教会をつないただけで「聖」として位置づけているが、その通りには他の施設が隣接しているので、本当にそれで良いのでしょうか。逆にそう位置づけた方が良いのか。プランニングをされた方から言うと、回遊性を感じさせるためにも多様な一面がでる様にしたいという事だと思います。軸の性格と軸に面している建物等の土地利用に特色がでて、はっきりと 2 つの軸の違いが感じさせるようになれば良いと思います。ハードの公共事業ならペープメントや植栽で変化を付ける事で違いをだす事が可能だと思いますが、民地側の誘導の方が大事になるのではないかと思います。今ある資源をピックアップし、それを強化する事で軸性を持たせる事ができれば、もっと良くなると感じました。諏訪神社のアプローチは、神社に直面して参道が付いています。キリスト教の軸だけが「聖」だと感じるのですが、背景の方含めて一体的に考えた方が良いと思います。

旧軽井沢地区の銀座どおりイメージ図の中の水路は、道路の真ん中に持ってきた方が良いと思います。水路は検討してどちらになるにせよ、樹木は落葉広葉樹の様に広がった種類でなければ、下にカフェ等を設置してもくつろぐ事ができません。そこは注意していただきたいと思います。

新軽井沢地区は、ほぼ考え方も絵も現案に大賛成です。ただ桜並木等は 1 列では良くなく、出来れば 4 列はあった方が良いと思います。春は桜ですが、秋についても検討の必要で、春は桜、秋は紅葉の様な提案もあって良いと思います。今までの観光地は様々な事を小賢しくやって失敗しています。小賢しくするのはではなく、単純な事（春は桜、秋は紅葉）を徹底すると事も一つのアイデアになると思います。矢ヶ崎公園ですが、池があるため大賀ホールまで周囲を周っていかねばなりません。歩く魅力があれば良いのですが、正面に見えるものになかなかたどりつかない事はストレスになると思います。

大賀ホールの近くまで伸びる長橋があればと思います。それによって池の風景に変化が生まれ、池に深みや魅力を与える事ができます。橋の上にちょっとした東屋を入れ、水の上で佇んだり、お茶を飲んだりできる空間をつくる事も考えられると思います。いずれにしても、ここを重視する考え方には大賛成です。もう一つ、浅間山の眺望も大事です。浅間山を眺めるビューポイントをしっかり整備する方向も非常に良いと思います。

中軽井沢地区の湯川緑地は、公共用地として底地は町ものですか？

事務局：(軽井沢町)

河川敷は県管理です。

進士委員：

管理については、県との交渉で、維持管理を含めて町が専用すれば良いと思います。溜まりと赤字で記載されている部分の緑地や遣り水も良いと思います。樹林がボイドに集まっている場所と空間を抜いてビスタを通す場所とのメリハリある計画をしっかりする事で一体感が生まれます。自然が大事とう意識があり過ぎるのですが、樹木は切る所は切った方が良いです。ナチュラルに見せながら、フロアステップとボイドと分けて広がり感を持たせる事ができればと思います。このような河川緑地がまちの真ん中にある事は軽井沢町の値打ちになると思います。そこに中村先生の思想にある地域の様々な施設等を上手く入れ込んでいく事、施設まで上手く誘導し、繋げていく一体的なデザインが必要であり、今までにはなかった事だと思います。

南地区はスポーツ施設の配置だけで終わっており、緑地とそこを利用するアクティビティがありません。競技をするだけであればその場所のみで良いのですが、周辺とのつながりも必要だと思います。ここの計画は車道がメインで、車のネットワークでとして良いかもしれませんが、それだけに頼ってしまっただけではいけないと思います。この場所は交通量が多い場所でもスピードを出す場所ではないと思いますので、車道と歩道がクロスしても良いと思います。ジョギングやウォーキングできるフットパスをもう少し入れ直し歩道空間を確保した方が良いと思います。また、車道の様にきれいなカーブの道は歩いていても楽しくありません。この場所は思いっきりアーバンデザインをやり直した方が良いと思います。

中村委員長：

南地区は、やるならば大胆に計画した方が良いと思っています。

進士委員：

施設も大胆に計画した方が良いと思います。民間を導入してもう少しアミューズメント的なものを入れなければ、スポーツをしない人が楽しめないのではないかと思います。先程、直売所を設置するお話がありましたが、これも直売所をくつつただけでは駄目だと思います。直売所とその他施設を繋げる事によってアミューズメント的なものが出来ると思います。

中村委員長：

スポーツセンターは、スポーツしない人も楽しめる空間でなければならないと思います。

花里委員：

現在の植物園の場所は、植物にとってかわいそうだと思います。スポーツ施設の付属の様な環境になっているので、別の場所に移し、空いた空間には新たなものをつくる等も検討しても良いと思います。

安島委員：

進士先生がおっしゃられた様に、基礎となる歴史的な事を資料内に入れた方が良いと思います。軽井沢は別荘が多い事が特色になっています。どの地区にどの様な方が住んでいるのかという基本情報が入

ると、もう少し絵の描き方も変わってくるのではないかと思います。

ゆうすげファーラムの南地区は、スポーツ施設を中心に描かれておりますが、別荘地帯でもあります。塩沢湖辺りは、別荘を含めた一体の場所として計画する必要があると思います。旧軽井沢の計画が別荘地としてのエリアを取って提案している事と同じような視点があった方が良くと思います。

その点からもう一つ申しますと、資料 1-3 の中に旧軽井沢の別荘地帯について記載されておられません。旧軽井沢の別荘地こそ軽井沢らしい特徴だと思いますので、何らかの言及が欲しいと思います。

スポーツについても、アイスアリーナは全国的にみても特色的であります。歴史的にみれば軽井沢のスポーツはゴルフやテニス、サイクリングです。この様に既にある軽井沢のイメージやある施設については、活かしていく必要があると思います。これに対してもどこかで言及しても良いのではないかと思います。

食文化も同じで、軽井沢のレストラン等は周辺自治体よりレベルは高いと思います。旧軽井沢の軽井沢銀座は非常に問題があると思っています。外資が多くご説明いただいた通りですが、軽井沢の将来を考ええる上でどうにかしなければならぬと思います。どの様にして賑わいあるまちにしていくべきかは、水路や並木以上にもう少しイメージを持っても良いのではないかと思います。

駅南側のショッピングセンターを抜きでは考えられないと思います。これについてもどう考えるのか議論が必要だと思います。

中村委員長：

資料 1-5 は 5 地区とフォーラムをまとめた形となっているのですが、安島先生が言われた別荘地を入れ込むとすると、どの様な表現が良いですか。個別の問題として新たに資料を作成するのか、それとお総括図に定義する方が良いですか？

安島委員：

資料が多くなるので、別資料とするよりも、総括的に入れた方が良いかと思います。

中村委員長：

難しい問題だと思いますので、1 枚書いただけで問題が解決する様な表現になるか不安です。いずれにしても、何かの形で言及するべきとのご意見を受け止めて、どう扱うかについては、少し考えさせて下さい。

花里委員：

別荘をプロットするだけでも難しいと思います。

事務局：(小野寺)

確かにある程度まとまったエリアは見えてくるのですが、個々に見るとバラツキもあるので難しいと感じます。入っている、入っていないの議論になると良くないので、表現の仕方は慎重に考えたいと思います。しかし、別荘の概念は非常に重要ですので、表現の仕方を考えて検討します。

進士委員：

別荘を歴史として時系列（年代）に整理し、代表的な範囲をプロットする方法もあります。

中村委員長：

先生方の毎回のレクチャーについては別途、整理させていただきます。花里先生の「別荘の歴史」、安島先生の「ヒルステーション」にまとめやご意見等を報告書のなかにもどう反映させるかについても考える必要があるかと思います。単なる付属資料とするのか、もう一度整理し考え直すのかになると思いますが、大体の事は報告書に入ると思います。

花里委員：

資料 1-3 は、皆さんからのご意見の通り、真ん中に絵、周囲に写真という構造は良いと思います。とくにこの中に入ってくる言葉や事柄が増えても対応できるので、この様な形式には賛成です。

クレオールという言葉が最近引っかかっています。以前、横島さんが軽井沢は植地的な別荘だとおっしゃっていましたが、クレオール文化としては大変ユニークで面白いと思っています。クレオールであるけれど、我々としては大切にし、例えば「コケ庭が広がる別荘地としては世界一」という形で世界一をアピールする事もあるのではないかと考えています。

スイス公使館(三笠)の話がこの中では出てきておりませんが、非常に重要な建物だと思っています。現在は軽井沢町が購入して公共物となったのですが、活用に悩んでいると思います。スイス公使館は、戦争中、日本が唯一外に開いた所であり、外交の拠点として重要な街であったと考えるべきだと思いますので、ほっとくべき手はないと思っています。

旧軽井沢地区「聖祝祭プラザ」の「聖の道」沿いに今はやっていない喫茶店「ふじや」があるのですが、天皇陛下が大変お気に召していた喫茶店と聞いています。大切に保存するなり、再開したりすべきではないかと考えています。北の方から車で来て場合、観光会館の脇で左に曲り、まち角広場の前を通過して出ていく事があります。並木道の所で自動車が通れないのは困るのではないのでしょうか？

事務局：(小野寺氏)

並木を植えているエリアは幅員が広いので、つくり方によっては自動車を通してながらデザインできると思っています。

花里委員：

もちろん、車の事は検討されているかと思いますが、ここは中仙道としての交通の要所としての歴史もごございますので、大切だという事をご指摘申し上げたい所です。

新軽井沢地区の芸術創成プラザですが、矢ヶ崎公園の池に橋をつくる事には賛成です。今は無くなっておりませんが、昔はあたったという事で、再生する事は大変面白いと思います。

進士先生、安島先生がおっしゃった様に、歴史については少し踏み込む必要があると思います。軽井沢には様々なるトーリーがあり、それぞれのストーリーを大切にしながら議論する必要があると思います。

大変立派な絵を描いていただいて、内容的には満足していますが、これをどの様な制度で守っていくのかについても踏み込んだ提案があれば、なお良いかなと思います。

中村委員長：

いずれも明記する必要があると思います。

現状より広場が広く感じますが、ユニオンチャーチの前に建っていた住宅は無くなったのですか？

事務局：(小野寺氏)

右側用地は民間施設が残っているようですので、今は極めて危機的な状況です。

中村委員長：

何の施設ですか？

藤巻委員：

ユニオンチャーチがやっていた日本語学校になります。



中村委員長：

この様な形の広場をつくる場合は、駐車場の代替地を用意する必要があるのでしょうか？その様な問題もごさいますが、この場所は大事な場所である事は間違いありません。

浅野委員：

大体の意見は皆さんから出ましたので、少し細かい所で言わせていただきます。

資料 1-7 は、旧軽井沢ですが、やはりユニオンチャーチを無理やり結びつけている様なイメージがします。ユニオンチャーチの広場をコモンスペースとして考えるならば、万平ホテルの方に行くエリアとの繋ぎや、駐車場ばかりある南側との関係等の方が大事だと思います。感想でございませう。

新軽井沢地区は、将来的に国際音楽祭を検討しているのであれば、もう一つホールがあっても良いのではないかと思います。大きくなくて良いと思います。室内楽とオーケストラができる程度の質が良いものがあればと思います。

中軽井沢地区の所に「そばの畑」と書かれていますうが、食文化としてのそばを軽井沢全体としてどう普及させるのかもう少し大事な要素とする重みを持っても良いのではないかと思います。

ゆうすげフォーラムは、皆さんのおっしゃる通りで、ここは全く人が歩いていない所だと思います。アイスアリーナからアイスパークまでも歩くための整備がされいなので、結局は公園内にも関わらず車で移動する事になっている状況です。今のままでは、まだこの状況が続き可能性があるのうで、検討して欲しいと思います。

先々週の日曜日にたまたま軽井沢に來たのですが、新幹線の私が乗車した車両の半数は、結婚披露宴のお客さんでした。絵の話とは関係な事ですが、こういうものをどう受け止めるのかについても考える必要があるのではないかと思いました。何グループもいたのうで、大変驚きました。

森山委員：

パブリックコメントについてですが、ランドデザインと掲げている割には、町民からアート、デザイン自体についてのコメントがありません。それ自体が高いレベルとして存在するというやり方もあるのですが、ここから発展させてどうコメントするのか、どういうあり方にすれば良いのか、他については皆さん共有の認識を持っていると思いますが、アートに関してはほとんど認識されていない様な気がしています。

未来構想の中には、新軽井沢の大賀ホール周辺の芸術遊創フォーラム、風越地区ゆうすげフォーラムのクリエイターズコロニー等が明示されています。新軽井沢の芸術遊創フォーラムの所には、メディアテーク型とも記載されており、先程、浅野先生からも国際音楽祭という提案がありました。様々な提案はされているのですが、いずれにしても軽井沢駅から見ると大賀ホール周辺に魅力的なものがあるという感じが視覚的には全くしません。これは大問題だと思います。もし、ランドスケープアートと含めて、ある種密度の高いパブリックアート、単なるアーティストのアートではなく音楽芸術と造形芸術が結び合う様なテーマをもったパブリックアートを駅から公園を一体として質高くできれば、シンボリックな像になり得るのではないかとこのう気がしています。

軽井沢の歴史的な国際性が聖職者、キリスト教である事は伺っていますが、ここでは何を国際性とするのか、国際性の中身を明示できるものがあれば良いと思います。教育的な事もあるかと思ひます。

花里先生がゆうすげ地区の植物園移転についてお話しされていましたが、今の計画の中では、中軽井沢に「野草フラワーアート」や「感性農園」として植物が集積する事になっていますので、一つの選択肢ですが中軽井沢に多様な植物像を結集させてはどうかと思ひます。

ゆうすげフォーラムには、街道沿いの古い農村の修景プランが盛り込まれているのですが、これは是非、具体的にして欲しいと思います。都市の農村風景は、看板等で汚染され大変貧しいという事は誰もが思う事ですが、是非、農村修景プランはお願いしたいと思います。

クレオールに対して軽井沢が世界一とはどういう事でしょうか。

花里委員：

軽井沢の別荘文化は外からの文化を受け継いできたことがクレオールであるということが一つありますし、その結果という訳ではないかと思いますが、コケ庭と一緒にいる事がクレオールだと思っています。軽井沢の別荘地には多くのコケ庭があります。コケは他の国にはないものだと思います。

森山委員：

それが世界一という事ですか？

花里委員：

世界一だと思います。

森山委員：

多分にご専門的なご発言ですので、私には良く分からないのですが、それが世界一か世界一でないかという議論は、ここでは特に意味はなしていないかなと思います。強調しなくて良いのではと思います。

中村委員長：

黒須先生にメモを出して頂きましたので、コメントを頂きたいと思います。

黒須委員：

フォーラムという言葉が重なっていたので、大分県野津原の取組みをご紹介させて頂きました。2 ところをご覧いただければと思います。N クラブは総合型地域スポーツクラブで、軽井沢にもあります。これまでのスポーツ組織は日本流では縦社会の様に自分たちの領域を守っていくスタイルが多かったです。自分達健康増進やスポーツの増進、精神の発展等、青少年の健全育成等に力をいれるだけで、他団体との連携はありませんでした。この「夢あふれる野津原フォーラム」では、市民を巻き込んだ市民参加の回路をつくってこうで実施しています。結果、スポーツと農業、スポーツと子育て、スポーツと観光等とのコラボ、具体的には「N スポランド」というクラブハウスをつくり、自分たちのグラウンドを自分達で作りあげる事を行っています。住民の使われていない土地をクラブが買い上げ、有効に活用しています。地域の魅力をつくることをスポーツという組織が音頭をとって実践しています。

先程の発表の中で、後程、中村委員長からもご説明があるかもしれませんが、市民参加について軽井沢には専門的な方も含めた多様な人材が豊富だと思います。この豊富な資源をどう活かすという事での、市民参加の回路をこの構想の中に示して頂ければと思います。フォーラムやワークショップという言葉は、一般の方からすると会合というイメージが強いので、その辺りの説明も必要なかと感じました。

横島委員：

今回の全体議論で賛同頂いている事はなによりだと思っていますが、現実論と観念論がないまぜになっている感じがします。失礼な話、中村先生の話にも観念論の部分があると思っています。観念論の部分を 100 年かけて現実に引き戻す事は、提案はできても、我々にはできない事です。そういう意味ではエリアデザインの中にも、実現可能なものと理想論で終わる可能性があるものもあり、その事が一緒になって議論されている事の切り分けをしておかなければ、まとめの段階でまとまるのか心配になっております。花里先生から具体的に進める方法論はあるのかというご質問があったのですが、その事と関連

すると、中村先生の言われている観念論に近いと思います。文化アカデミー構想がこれにあたるわけですが、つまり、大きな理想を掲げたら、その理想を実現させるために長時間かけて町民が一つの心の基で勉強して、理解して、実行力を保つという形のアカデミックな組織がなければできないだろうと思います。そういう意味では、町民のレベルアップがベースに潜んでいるという考えが、中村先生の観念論のなかで一番大事な背骨だろうと思います。そのこととクレオールの話は繋がると思うのですが、私が申し上げた植民地論は、花里先生が言われているような意味ではありません。ヒルステーションが植民地的発展してきた場所に多くあるように、国内的植民地的発展をした軽井沢が、自らの自意識の覚醒のもとで、新たな時代に入っていくという意味で、住民との関係を植民地的関係から切り離してみたいと考えています。その一つの照査は、大賀ホールの入場者数の東京と地元の比率論です。始まった当初は東京から来た人が10割でしたが、それが現在でも8~9割はあります。まだ東京からの入場者数の方が多い結果となっています。高原保養地の住民意思を一度直しておかないと、本当の意味でのバランスある本来の意味の高原創遊地ができないと考えています。かみ合わないかもしれませんが、誤解があってはいけませんので、お答えさせていただきました。

中村委員長：

どうも有難うございました。皆様のご意見はごもっともですので、最後にどういう形でそれを表現するかについてはこれかから検討させていただきます。何らかの形で最終レポートに入れるべきだと思っています。形式については検討させていただきます。

総括的に申しますと、パブリックコメントやエリアデザインにしても、いずれにしても遠い将来の感じではなく、都市計画で考える射程範囲内だと思っています。この委員会の発想は100年という長期間的な理念から出発して各地区にいくという話でした。100年という時間は拘る必要はなく、長期間的と捉えていただければと思います。それに忠実に進めていきたいと思っています。そういう意味では、本日の長期間的な価値や理念の概念をどう結びつけるのかという事については、最初の時に進士先生からもご注意がありましたが、完全にきちっと示されていないと思います。各論的な細かい事もたくさん出てきております。パブリックコメントでは町民から具体的な提案がございます。それらは、それほど長期的なものではなく、中期的に実現した方が良いものばかりです。非常に多くの課題がありますので、やはり出発点に戻り、それらを総括する様な力強い理念がなければ、バラバラになってしまいます。そうでなければ、途中で忘れられてしまう可能性が充分あると思います。その様にならないためにも、もう1度、はじめに戻って、ランドデザインのイメージを短い言葉できちっとまとめる作業を行いたいと思います。

1月に1度提示「軽井沢未来構想五原則」が不完全でしたので、手を入れました。これからもう少し詰めていきたいと思っておりますが、各論に結びつける様な所だけご説明させていただきます。



軽井沢町ランドデザイン像作成事業 中間報告

資料 1-2 : 軽井沢未来構想五原則改訂

藤巻委員 :

このランドデザインを最優的に受け取るのは住民になりますので、足元にある現実的な課題の解決策や少し先だけど実現したら良いだろうというものも提案され、それだけではなく、更に 50 年、100 年先の夢も上手く落とし込めるようにするためには、どうすれば良いか、自分なりに考えてはいます。それぞれのエリアの中で想いをこめていくやり方もあるかと思うのですが、その辺りの表現の仕方をどうしていくべきかは考えていかなければと思っています。中村先生がおっしゃった新しい未来の風土はその通りだと思いますし、大事な事ですので、これをどう全体の中に落とし込むか、エリアデザインのなかにどれだけ落とし込めるのかというところが問われるのかなと思っています。

横島委員 :

ランドデザインという耳慣れない言葉をはめ込んで、あえてお付き合いいただいている立場からいくと、心苦しいのですが、新聞で一面を見た時、8 割の人は見出し 1 行しか見ないとされています。残り 20%の 15%は脇見出しの 5 行程度の記事のみです。中の記事を読む人は 5%だと言われています。それを覚悟して新聞記者は原稿を原かき分けています。それが良いかどうかは分かりませんが、しかし、この種のもでも町民や皆さんが見てくれるのは見出しだけでもいいかもしれません。それでも理解させなければならぬと、理解してもらえようなものでなければいけないと思っています。もう少し詳しく知りたいという方は、脇の 5 行を読んでもらえるように、次の 5 行を用意しなければなりません。この文化アカデミーの中心となる様な意欲がある残りの 5%の方は、全てを読んでしっかりと中村先生の思想を理解してもらわなければならないと思います。その様なすみ分け、書き分けが最終的なパターンとしては必要なのではないかと思っています。見出しの 1 行というのは、絵だけでもいいし、絵プラス短冊（キャッチコピー）が 1 行の大見出しになります。その次の中間に脇見出しが 5~10 行つく様な冊子があって、それから本文の記事があるような構成を UDC さんをお願いしたいという事が、この中間報告のまとめにあたってのお願いになります。その様な書式が一番分かり易いのではないかと思います。

もう一つは、ランドデザインと考えると、最大公約数を求めたくなるのですが、私が逆で、最小公倍数の方が良いと思います。最大公約数は大きな大論になってしまうのですが、最大公約数は空中分解する可能性があるかと思いますが、最小公倍数は一つ一つの倍率の素数ですので、単体論があった上でそれが一つの共通項として成立しているものだと思います。今回のランドデザインは、まちづくりの 100 年計画の最少公倍数の答えという風に考えた方が良いのではないかと思います。まだ上手く説明できないのですが、この様な事を思い浮かべています。

もう一つ皆さんにご紹介したい事があります。病院のベットの上の時間が長かった時に、何回となくベートーベンの第 6 「田園」を聴いておりました。ご存じの方がいらっしゃると思いますので、知ったかぶって失礼ですが、田園は第 5 楽章まであります。普通の交響曲は 4 楽章までです。田園だけはベートーベンは第 4 で大混乱していますが、第 5 で静かにまとめ直しをしています。それで田園は成立したというのが、門間直美さんの解説ですが、非常に分かり易いです。原点の良さが第 1 楽章で、そこにき

た別荘族の平和が第2楽章で、そこに融和した先住民が第3楽章で、その融和が先程のクレオールかもしれないかもしれませんが、ある種の混乱状態の時かもしれません。そこで田園が求めている第5楽章、つまり全体調和をもう1度見直す第5楽章をこのグランドデザインに取り入れ、その具体的な答えがエリアデザインであるという位置関係だと分かり易いのではないかと思います。

中村委員長：

3月の年度末に相応しい会になったと思います。有難うございました。今日の話は幹事会の中で作業班とじっくり反芻した上、新年度に向けて作業を行います。あらためて、また皆さんにお会いする事になるかと思しますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局：

どうも有難うございました。既に議論は終わったようなものですが、資料2に今後のスケジュールを記載しています。今年の10月には町に最終成果を納めることとなりますが、それまでには、ご機論ありましたように、町民に分かり易い成果を作成し、12月には町民説明会という予定控えております。内容あるいは表現につきましては、町長、横島委員からの意見を踏まえまして、町民の方に理解頂けるものをつくりたいと思いますので、よろしく願いいたします。会議の進め方につきましては、中村委員長からもお話頂いたように、個別で協議させて頂くこともあろうかと思いますが、グランドデザインの作成には引き続き、中村先生にご指導を頂きながらまとめて参りたいと思います。これで終わりという訳ではございませんが、平成25年度は月に1回の会議開催でハードなスケジュールでした。誠に有難うございました。今日の会議はこれで終了させていただきます。

(以上)